

科 目	週 時 数
論理国語	2 時間

目 標	実社会において必要となる、文章を論理的に書いたり批判的に読んだりする資質・能力を養う。	
育 っ て たい 力	知識 技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
	思考 判断 表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	主体性 協働性 多様性	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	【自己と他者】『贈り物』としてのノブレス・オブリー 【コミュニケーションの手段】『記号的メディアと物理 【メディアの変容】『ポスト真実時代のジャーナリズム 【言語の探究】『人を指す言葉－自称詞・対称詞・他	・論理的な文章を読んで、筆者の着眼点や論旨の展開の特色を理解し、自身の考えと比較する。 ・教科書所収の文章を素材に、言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかるとともに、様々なタイプの問題文に触れ言語感覚を養う。
2 学 期	【政治と社会】『多数決を疑う』 【存在への問い】『日常に走る亀裂』 【環境へのまなざし】『生物多様性の恩恵』 【歴史と時間】『無常ということ』	・論理的な文章を読んで、筆者の着眼点や論旨の展開の特色を理解し、自身の考えと比較する。 ・教科書所収の文章を素材に、言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。 ・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかるとともに、様々なタイプの問題文に触れ言語感覚を養う。

授業の形態	一斉授業・グループワーク 等
教科書	『論理国語』(大修館書店)
副教材	『共通テスト対策 新しい第3の現代文 集中完答11』(尚文出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	小テスト、レポート、課題に沿ったプレゼンテーション等を随時実施。

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	随時実施
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	的確な授業理解のもと、学習の手引の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ、学習の手引の問いを解ける

※80%＝80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
文学国語	2 時間

<b>目 標</b>	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
<b>育 っ て たい 力</b>	<b>知識 技能</b>	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
	<b>思考 判断 表現</b>	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	<b>主体性 協働性 多様性</b>	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	「桜の中で、ときが重なり合う」 「鍋セット」 「赤い繭」 「藤」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古今の文学的な文章を読み、日本語による言語表現の特色、我が国固有の文化的連続性を理解する。</li> <li>・教科書所収の文章を素材に、言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。</li> <li>・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかる。</li> </ul>
2 学 期	「檸檬」 「舞姫」 「冥途」 その他 問題演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古今の文学的な文章を読み、日本語による言語表現の特色、我が国固有の文化的連続性を理解する。</li> <li>・教科書所収の文章を素材に、言語活動を行い、実践的な言語運用能力を養う。</li> <li>・問題演習を通して、実践的な読解スキルの向上をはかる。</li> </ul>

<b>授業の形態</b>	一斉授業・グループワーク 等
<b>教科書</b>	『文学国語』(大修館書店)
<b>副教材</b>	「完成 現代文」(尚文出版)、「共通テスト対策 現代文完答22」(尚文出版)
<b>評価の方法</b>	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
<b>備考</b>	小テスト、レポート、課題に沿ったプレゼンテーション等を随時実施。

<b>到達 目 標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	随時実施
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

<b>知識・技能分野 の到達目安</b>	80%	的確な授業理解のもと、学習の手引の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ、学習の手引の問いを解ける

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
古典探究	3 時間

目 標	主体的に古文・漢文を読み深めることを通して、わが国の言語の基盤である古典の重要性を理解し、自分や自分を取り巻く社会における古典の意義や価値を考察し、探求する態度を育てる。	
育 っ て たい 力	知識 技能	古典に用いられている語句の意味や用法、文の構造、文章の構成に即して内容を的確に捉え、伝統的な言語文化に対する理解を深める。
	思考 判断 表現	人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい、作品の価値について考察する。
	主体性 協働性 多様性	人間の生き方、考え方などについて話し合ったりまとめたりすることで、古典に親しみ、言語文化に対する理解を深め、豊かな人間形成を図る。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	教科書所収文章の読解	(古文) ・登場人物の心情を的確に読み取る。 ・テキストを著した作者のものの感じ方、考え方を捉える。 (漢文) ・語句や句法の意味、用法に注意し、内容を正しく理解する。 ・登場人物と場面の展開を整理し、話の流れを正確に読み取る。
2 学 期	教科書所収内容のまとめ ・適宜、問題演習を行う	(古文) ・作品の背景を理解し、資料を適切に利用して内容を理解する。 (漢文) ・語句や句法に注意しながら内容を理解し、他者に説明できるようにする。

授業の形態	一斉授業・グループ学習
教科書	『古典探究古文編』『古典探究漢文編』(大修館書店)
副教材	共通テスト対策 古典完答22
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	文語文法・漢文句法の小テストを授業で実施

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	的確な授業理解のもと、学習の手引の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ、学習の手引の問いを解ける

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
日本史探究	3 時間

目標	我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりを踏まえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養う。また、我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代の日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する。	
	知識技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
	思考判断表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
	主体性協働性多様性	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第3部 近世の日本と世界 第2章 幕藩体制の成立と展開 第3章 近世の国家・社会の変容 第4部 近現代の地域・日本と世界 第1章 開国から倒幕へ 第2章 明治維新 第3章 近代国家の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>法や制度による支配秩序の形成と身分制、貿易の統制と対外関係、技術の向上と開発の進展、学問・文化の発展などを基に、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解する。</li> <li>対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に、近世から近代への時代の時代の転換を理解させる。</li> <li>欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。</li> </ul>
	第4章 両大戦間の日本 第5章 十五年戦争と日本 第6章 戦後日本の形成 第7章 グローバル化のなかの現代日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>学問の発展や教育制度の拡充、社会問題の発生などを基に、近代の文化の特色、大衆社会の形成を理解する。</li> <li>恐慌と国際関係などを基に、第二次世界大戦に至る過程を理解する。</li> <li>軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などを基に、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解する。</li> <li>我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解する。</li> </ul>

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習 ICTを活用した学習
教科書	『日本史探究』(実教出版社)
副教材	『日本史探究 マイノート』(実教出版社)、『詳説日本史図録 第10版』(山川出版社)、『時間と流れて覚える! 日本史用語』(文英堂)
評価の方法	定期試験と平常点(復習テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	単元ごとに振り返りを行い、各テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の歴史的事象を関連付けて理解し、説明出来る
	60%	教科書の重要語句の関連性を理解出来る

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
世界史探究	3 時間

目標	地球の誕生や人類の誕生を視野に入れつつ、古代文明の形成から現代に至る世界の歴史の展開を扱い、諸地域の歴史的特質の形成、諸地域の交流・再編、諸地域の結合・変容という大きな枠組みを基に、世界の歴史を大きく捉える。	
	知識技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
	思考判断表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
	主体性協働性多様性	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	D 諸地域の結合・変容 (1) 諸地域の結合・変容への問い (2) 世界市場の形成と諸地域の結合 (3) 帝国主義とナショナリズムの高揚 (4) 第二次世界大戦と諸地域の変容	・諸資料を活用し情報を読み取ったりまとめたりする技能を身につけるとともに、諸地域の結合・変容を読み解く観点について考察し表現する学習活動を通して見いだした問いを表現させる。
2 学期	E 地球世界の課題 (1) 国際機構の形成と平和への模索 (2) 経済のグローバル化と格差の是正 (3) 科学技術の高度化と知識基盤社会 (4) 地球世界の課題の探究	・国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、国際連盟と国際連合との共通点と相違点、冷戦下の紛争解決と冷戦後の紛争解決との共通点と相違点、紛争と経済や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現させる。

授業の形態	一斉授業、グループ学習、ペア学習、ICTを活用した学習
教科書	『世界史探究』(実教出版社)
副教材	『世界史探究 マイノート』(実教出版社)、『アカデミア世界史』(浜島書店)、『進研WINSTEP世界史探究』(ラーンズ)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、発表、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	単元ごとに振り返りを行い、各テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な教材を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の歴史的な事象を関連付けて理解し、説明することができる
	60%	教科書の重要語句の関連性を理解する

※80%＝80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
政治・経済	3 時間

<b>目 標</b>	現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。また、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図り、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。	
<b>育 っ て たい 力</b>	<b>知識 技能</b>	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
	<b>思考 判断 表現</b>	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。
	<b>主体性 協働性 多様性</b>	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第1部 現代日本における政治・経済の諸課題 第1編 現代日本の政治 第1章 民主政治の基本原則 第2章 日本国憲法の基本的性格 第3章 日本の政治機構 第4章 現代日本の政治 第2編 現代日本の経済 第1章 経済社会の変容 第2章 現代経済のしくみ 第3章 現代経済と福祉の向上 第3編 現代日本における諸課題の探究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政治と法の意義、人権保障や議会制民主主義を理解し、主権者としての在り方を考察する。</li> <li>・政党政治や選挙、地方自治を通して望ましい政治参加の姿を多面的に構想する。</li> <li>・経済活動や市場、財政・金融の仕組みを理解し、現代経済を多角的に考察する。</li> <li>・市場の機能と限界、持続可能な財政や福祉との関連を踏まえ経済の課題を探究する。</li> <li>・政治と経済を関連付け、現代社会の諸課題解決に向け主体的に構想・表現する力を養う。</li> </ul>
2 学期	第2部 グローバル化する国際社会の諸課題 第1章 現代の国際政治 第2章 現代の国際経済 第3章 国際社会の諸課題の探究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際法や国連の役割、安全保障と国際貢献を理解し、日本の使命を考察する。</li> <li>・国際紛争の要因と平和構築の課題を踏まえ、国際社会の特質を多角的に探究する。</li> <li>・貿易や為替、国際収支と国際経済機関の役割を理解し、相互依存の深化を考察する。</li> <li>・国際経済における日本の役割と国際協調の在り方を主体的に構想する。</li> <li>・環境・資源・格差など地球的課題を政治と経済の視点から考察し表現する力を養う。</li> </ul>

<b>授業の形態</b>	一斉授業 グループ学習 ペア学習
<b>教科書</b>	『詳述 政治・経済』(実教出版)
<b>副教材</b>	詳述 政治・経済演習ノート(実教出版)、ズームアップ公共資料(実教出版)
<b>評価の方法</b>	定期試験と平常点(小テスト、提出物等)による総合評価
<b>備考</b>	ICTの活用、アクティブラーニングを取り入れる

<b>到達目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

<b>知識・技能分野の到達目安</b>	80%	教科書と社会的事象を関連付けて理解し、説明することができる
	60%	教科書の重要語句の関連性を理解する

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
数学C	2 時間

目 標	ベクトルについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。さらに、発展的な問題に対して、既習事項を基に自ら解決する力を育てる。	
	知識技能	数学的活動を通して、ベクトルにおける基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。また事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。
	思考判断表現	数学的活動を通して、ベクトルにおける数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考察し、表現するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考える。
育 っ て たい 力	主体性協働性多様性	自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし、ICTを活用し、説明したり、議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	○ベクトル	○ベクトルの意味およびその演算法則を理解する。また、ベクトルを種々の図形問題に応用することができる。
2 学期	○問題演習	○問題演習を通して、ベクトルについての理解を深める。

授業の形態	一斉授業、グループ学習
主たる教材	『数学C Advanced』(東書 数C 701)
副教材	Hi-PRIME 数学C(東書) チャート式基礎からの数学C(数研)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	章ごとに問題演習の時間をとり、応用力を身につける

到達目標	①定期試験	教科書の内容を完全に理解した上で、応用問題にも取り組む
	②小テスト	定期的に小テストを行い、自分の理解度を判断する
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書の練習問題B
	60%	教科書の練習問題A

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
数学探究Tb(設定)	3 時間

目 標	既習事項について、数学における概念や原理・法則について掘り下げ、理解を深める。また、諸事象について多面的に捉え論理的に思考する力を育てる。さらに、数学的活動を通して創造性を培うとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。	
	知識 技能	高校数学の総復習を通して、その履修内容の理解を深め、知識、技能を確かなものにする。また事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。
	思考 判断 表現	問題演習および課題学習を通して、論理的に考察し表現するなど、数学的な見方や考え方を身につける。さらに、事象を数学的・図形的にとらえ、論理的に考察し、表現するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考える。
育 て た い 力	主体性 協働性 多様性	数学的活動を通して、考え方や体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを発展的な事象の考察に活用しようとするができる。自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数と式</li> <li>○関数と方程式・不等式</li> <li>○式と証明</li> <li>○整数の性質</li> <li>○場合の数・確率</li> <li>○図形の性質</li> <li>○図形と式</li> <li>○三角比・三角関数</li> <li>○指数関数・対数関数</li> <li>○微分・積分</li> <li>○数列</li> <li>○ベクトル</li> <li>○データの分析</li> <li>○統計的な推測</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高校数学の履修内容の習熟。</li> <li>○定理・公式の本質的理解。</li> <li>○諸事象の体系的な理解。</li> <li>○論理的思考力および数学的・図形的思考力の育成。</li> <li>○問題解決能力の育成。</li> </ul>
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高校数学の総仕上げ。</li> </ul>

授業の形態	一斉授業、グループ学習
主たる教材	ニューグローバルマーチ 数学 I+II+A+B+C (東京書籍) 独自教材(プリント)
副教材	攻略! 共通テスト Pick Up128 数学I+A、II+B+C(東京書籍) 共通テスト実践問題バックV 数学 I・A35、 数学 II・B・C35(駿台文庫)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	演習の時間とその内容を説明する時間を多く設定する

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	ニューグローバルマーチの*つきExercise B の完全理解
	60%	ニューグローバルマーチのReview、Exercise A の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
数学探究T(設定)	3 時間

<b>目 標</b>	既習事項について、数学における概念や原理・法則についての理解を深める。さらに、事象を数学的に考察し処理する力を伸ばすとともに、それらを文章や式、図・グラフを用いて他者に説明する力(記述・論述力)を育てる。	
	<b>知識 技能</b>	高校数学の総復習を通して、その履修内容の理解を深め、知識、技能を確かなものにする。また事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。
	<b>思考 判断 表現</b>	問題演習および課題学習を通して、論理的に考察し表現するなど、数学的な見方や考え方を身につける。さらに、事象を数学的・図形的にとらえ、論理的に考察し、表現するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考える。
	<b>主体性 協働性 多様性</b>	自ら課題を見だし、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし、ICTを活用し、説明したり、議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け、具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数と式</li> <li>○関数と方程式・不等式</li> <li>○式と証明</li> <li>○整数の性質</li> <li>○場合の数・確率</li> <li>○図形の性質</li> <li>○図形と式</li> <li>○三角比・三角関数</li> <li>○指数関数・対数関数</li> <li>○微分・積分</li> <li>○数列</li> <li>○ベクトル</li> <li>○データの分析</li> <li>○統計的な推測</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高校数学の履修内容の習熟。</li> <li>○定理・公式の本質的理解。</li> <li>○諸事象の体系的な理解。</li> <li>○論理的思考力および数学的・図形的思考力の育成。</li> <li>○問題解決能力の育成。</li> </ul>
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高校数学の総仕上げ。</li> </ul>

<b>授業の形態</b>	一斉授業、グループ学習
<b>主たる教材</b>	ニューグローバルマーチ 数学Ⅰ+Ⅱ+A+B+C(東京書籍) 独自教材(プリント)
<b>副教材</b>	攻略! 共通テスト Pick Up 数学Ⅰ+A、Ⅱ+B+C(東京書籍) 共通テスト実践問題バックⅤ 数学Ⅰ・A35、 数学Ⅱ・B・C35(駿台文庫)
<b>評価の方法</b>	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
<b>備考</b>	演習の時間とその内容を説明する時間を多く設定する

<b>到達目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

<b>知識・技能分野 の到達目安</b>	80%	ニューグローバルマーチの*つきExercise B の完全理解
	60%	ニューグローバルマーチのReview、Exercise A の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
理科探究物理基礎(設定)	1 時間

<b>目 標</b>	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。	
	知識 技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めることで、生徒自らが課題を見つけ、考え、見直しをもって主体的かつ意欲的に観察、実験などに取り組む。
	思考 判断 表現	物理基礎の学習で学んだ事柄が、他の自然科学の基礎を担うとともに、日常生活や社会を支える科学技術と結び付いており、科学が大きく発達した現代社会において、環境保全に配慮しつつ安全かつ快適に生活するために欠かせないものであることを、実感をもって理解する。
	主体性 協働性 多様性	身近な物理的な事物・現象を物理学的に解釈し、また、物理がかかわる問題に直面したときに、自分の力で解決する方法を見出す能力と態度を育てようとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	第1編 物体の運動とエネルギー (様々な力、力のつり合い、運動の法則、落下運動)  第1編 物体の運動とエネルギー (仕事とエネルギー、力学的エネルギーの保存)  問題演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常に起こる物体の運動を観察、実験などを通して、力学の基本的な概念や法則を理解する。</li> <li>・定期試験では、発展的な内容を出題し、理解を深める。</li> <li>・日常に起こる物体の運動を観察、実験などを通して、運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方を身に付ける。</li> </ul>
2 学 期	第2編 さまざまな物理現象とエネルギー (熱、波、エネルギーとその利用)  第2編 さまざまな物理現象とエネルギー (物質と電気抵抗、電気の利用)  問題演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理基礎で扱う内容の完全な理解を目標とする。</li> <li>・定期試験では、発展的な内容を出題し、理解を深める。</li> </ul>

授業の形態	一斉授業
教科書	『新編 物理基礎』(東京書籍)
副教材	ニューサポート新編物理基礎(東京書籍)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

<b>到達目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	「ニューサポート新編物理基礎」のレベルアップドリル及びプリント『物理のStairs』の理解
	60%	「ニューサポート新編物理基礎」のサポートチャレンジ及びプリント『物理のStairs』の表面の理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
理科探究化学基礎(設定)	1 時間

<b>目 標</b>	「化学基礎」で学習した酸・塩基分野と酸化還元分野について、関連する実験や探究活動、問題演習を通じて学習内容の理解を深める。さらに、習得した化学の基本概念をもとに自然の理解を深め、科学的な思考力・判断力を育成する。	
<b>育 っ て たい 力</b>	<b>知識 技能</b>	基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につけることができる。 化学現象について、学習した知識を基に、定量的かつ定性的に扱うことができる。
	<b>思考 判断 表現</b>	実験結果のデータや表を基にして、化学現象を客観的にとらえることができる。 化学現象について、原子・分子レベルで考え、他者にわかりやすく説明できる。
	<b>主体性 協働性 多様性</b>	目的意識をもって観察・実験を行ない、化学的に探究する能力と伝える能力を身につけることができる。 主体的に課題に取り組むことにより、興味・関心を高めることができる。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質の構成</li> <li>・物質の構成粒子</li> <li>・粒子の結合</li> <li>・物質量と化学反応式</li> <li>・酸と塩基</li> <li>・中和反応</li> <li>・酸化還元反応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学結合のしくみと性質について原子モデルをイメージしながら深く学び、物質の成り立ちを理解する。</li> <li>・固体・液体・気体の状態変化を原子や分子の動きをイメージしながら理解し、沸点・融点などの温度変化と結びつけ理解する。</li> <li>・代表的な酸・塩基が答えられ、強弱の意味を理解し、水溶液中での分子やイオンの状態がイメージできるようにする。</li> <li>・中和滴定において、蒸留水による洗浄や共洗いについて理論的に理解できるようにする。</li> <li>・電子の移動が酸化還元反応の基本であり、身近な現象で酸化還元反応の例を説明できるようにする。</li> </ul>
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に関連した化学</li> <li>・化学実験の基礎</li> <li>・グラフを用いた思考型問題演習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学と人間生活について、化学の成果・環境問題について深く考えることができる。</li> <li>・実験器具について操作手順を理解し正しく使用できる。</li> <li>・グラフを分析し、与えられた課題に対して的確に答えられるようにする。</li> </ul>

<b>授業の形態</b>	一斉授業
<b>主たる教材</b>	「チェック&演習化学基礎」(数研出版)
<b>副教材</b>	セミナー化学基礎(第一学習社)
<b>評価の方法</b>	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
<b>備考</b>	特になし

<b>到達目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

<b>知識・技能分野 の到達目安</b>	80%	「セミナー化学基礎」の基本問題の完全理解
	60%	「セミナー化学基礎」の基本問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
理科探究生物基礎(設定)	1 時間

<b>目 標</b>	生物や生物現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。	
<b>育 っ たい 力</b>	知識 技能	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を再確認する。
	思考 判断 表現	多種多様な生物現象についての観察・実験などを行い、それらの探究活動を通して、生物や生物現象に関する体系的な知識を得たり、生物学的に探究する能力や態度・方法を身につける。
	主体性 協働性 多様性	自然現象に対して興味・関心を高め、疑問点を主体的に見出そうとする意欲をもつ。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とその働き 第3章 生物の体内環境 第4章 バイオームの多様性と分布 第5章 生態系とその保全 予想模擬テスト	・生物基礎全般にわたり、基本事項の確認と内容についての理解を深める。
2 学 期	・生物に関する探究活動	・生物基礎全般にわたって、基本事項の確認と内容理解を深めるだけでなく、観察や実験などの探究活動を通して、思考力や判断力を身につける。

<b>授業の形態</b>	一斉授業 グループ学習
<b>主たる教材</b>	「ビーライン生物基礎」(第一学習社)
<b>副教材</b>	セミナー生物基礎(第一学習社)
<b>評価の方法</b>	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
<b>備考</b>	調べ学習を取り入れる 実験や観察を取り入れる

<b>到達目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

<b>知識・技能分野 の到達目安</b>	80%	「ビーライン生物基礎」の発展問題の完全理解
	60%	「ビーライン生物基礎」の基本問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
理科探究地学基礎(設定)	1 時間

<b>目 標</b>	地学的な事物・現象についての観察、実験等を行い、自然に対する関心や探究心を高め、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を養う。	
<b>育 っ たい 力</b>	知識 技能	火山や地震、気象などの自然現象を正確に理解するとともに、防災への知識など、自然を守り、共存していくための基礎を学ぶ。
	思考 判断 表現	実験や探究活動を通じ、物事を考察していく上で必要な手順や方法を学び、適切に表現できる能力を養う。
	主体性 協働性 多様性	グループ学習などを通じて、主体的に学ぶ姿勢を養い、協働作業の重要性について理解する。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	3. 移り変わる地球 第3章 地球史の読み方  4. 自然との共生	3. 地層の形成過程や地層を構成する堆積岩、地質調査について理解を深め、地球の歴史がどのように紐解かれていったのかを学ぶ。 4. 地球環境の変化を科学的に考察する。 日本の自然環境を理解し、その恩恵や災害など自然環境について理解を深め、人間生活と自然環境との関わりについて考察する。
2 学 期	・地学に関する探究活動	・地学基礎全般にわたって、基本事項の確認と内容理解を深めるだけでなく、探究活動やグループワークを通して、思考力や判断力を身につける。

<b>授業の形態</b>	一斉授業、グループ学習
<b>主たる教材</b>	「セミナー地学基礎」(第一学習社)
<b>副教材</b>	自主教材(プリント)
<b>評価の方法</b>	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
<b>備考</b>	特になし

<b>到達目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

<b>知識・技能分野 の到達目安</b>	80%	自主教材(プリント)の内容の理解、発展課題内容の理解
	60%	自主教材(プリント)の内容の理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
体育	3 時間

<b>目 標</b>	各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。	
<b>育 っ て たい 力</b>	知識技能	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基本的な事項を理解し、知識を身につける。また、自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の技能を高める。
	思考判断表現	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫する。
	主体性協働性多様性	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら計画的に運動をしようとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	体づくり運動、新体力テスト *組体操(徒手体操)、体育祭の練習 体育理論 テニス バレーボール ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する。</li> <li>・様々な体の使い方を学び、各自で種目を選択し互いに協力・補助し、連続技に挑戦する。</li> <li>・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。</li> <li>・ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開する。</li> <li>・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。</li> </ul>
2 学期	体育理論 バスケットボール サッカー 卓球 バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動技術と運動技能の違いを知り、それぞれの運動種目に応じた運動技術について理解する。</li> <li>・ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。</li> <li>・ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋める動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。</li> <li>・安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。</li> </ul>

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『高等学校保健体育』(第一学習社)
副教材	ステップアップ高校スポーツ(大修館)
評価の方法	実技試験と体育レポート、定期試験(種目の歴史とルール)による総合評価
備考	特になし

<b>到達目標</b>	①定期試験	実技では規定の技能を正確に行う。筆記試験はルールや歴史を理解する。
	②実技テスト	競技の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	規定の服装で授業を受けること
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科目	週時数
英語コミュニケーションⅢ	4 時間

目標	<p>日常的・社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、</p> <p>1. 必要な情報を聞き・読み取り、話・文章の展開や話し手・書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>2. 多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝え合うことができ、会話を発展させることができる。また、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができる。</p> <p>3. 多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる。</p>
----	---

育てたい力	<p><b>知識技能</b></p> <p>まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から情報を得て、整理することができる。日常生活についてのまとまりのある内容をよく理解することができる。専門的内容を含む話や会話を聞いて、主題と詳細情報を区別して理解することができる。</p>
	<p><b>思考判断表現</b></p> <p>書き手の意図を理解して、自分の意見と比較しながら批判的に読むことができる。日常生活の話題について、構成を意識して文章を書くことができる。自分の意見や感想を論理的に整理し、説得力のある文章を書くことができる。</p>
	<p><b>主体性協働性多様性</b></p> <p>日常生活の出来事を説明したり、用件を伝えたりすることを、簡潔かつ適切に行うことができる。専門的内容を含む話題について、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。話し合いの場ではリーダーとして意見の集約をすることができる。</p>

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	Unit 1 What thinking and study habits can help us succeed? Unit 2 How can we use AI to improve education? Unit 3 What do folktales tell us about human values? Unit 4 What items would you place in a time capsule? Speaking Strategies 1 Writing Strategies 1	以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 〈学習方法／仕事に有効な考え方・習慣について考える〉 〈AIの進化と活用、社会への影響を考える〉 〈文化人類学の観点から、世界の民話の特徴や類型を学ぶ〉 〈「タイムカプセル」に残された物から何を学べるか、未来に向けて何を残したいかを考える〉
2 学期	Unit 5 What are the rewards and challenges of living in a different culture? Unit 6 How can art be made accessible to all? Unit 7 How can we preserve life below water? Speaking Strategies 2, 3 Writing Strategies 2, 3 Praxis 共通テスト対策	以下のテーマについて、円滑なコミュニケーション活動ができるようになる。 〈様々な事例から、異文化の中で暮らすことの意義と困難について考える〉 〈だれもが楽しめる芸術のり方について考える〉 〈持続可能な社会のための資源の開発や養殖の取り組みについて知る〉 〈スポンサーシップや命名権などの金銭と倫理の問題について知る〉

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	Enrich Learning English Communication III (東京書籍)
副教材	Praxis Level 4 (Z会) 2025 共通テスト対策【実力完成】直前演習 英語(リーディング)40minutes×14 (ラーズ)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題を全て理解、暗記している
	60%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題を全て理解している

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
論理・表現Ⅲ	2 時間

<b>目 標</b>	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。	
<b>育 っ たい 力</b>	<b>知識 技能</b>	まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から必要な情報を得ることができる。 筆者の意図などを正確に理解して、文章を批判的に読むことができる。 日常生活についての情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を理解することができる。 複数の話題が含まれた話や会話を聞いて、主題と詳細情報を区別しながら理解できる。
	<b>思考 判断 表現</b>	日常生活の話題についてある程度まとまりのある文章を書くことができる。 効果的な事例を取り入れながら、自分の意見や感想を論理的に整理し、複数の段落で書くことができる。
	<b>主体性 協働性 多様性</b>	日常生活の出来事について説明したり、用件を伝えたりすることができる。 英語のネイティブスピーカーの先生と、本や映画など馴染みのある話題であれば、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学期	L1 The Easiest City to Live in L2 The Value of Libraries L3 Improving Our Town L4 Free Time L5 New Sports and Entertainment L6 Enriching Our Lives L7 A Common Concern L8 Maintaining the Ecosystem	以下の項目を活用した円滑な言語活動が行えるようになる。 ・動詞(句) ・助動詞 ・副詞 ・分詞構文 ・形容詞/副詞 ・比較表現 ・関係詞・前置詞
2 学期	L9 A Sustainable Lifestyle L10 The Evolving Japanese Workforce L11 Inside Fairtrade L12 Volunteering to Help L13 Trends in Studying Abroad L14 English as an Official Language L15 Understanding Diversity	以下の項目を活用した円滑な言語活動が行えるようになる。 ・前置詞 ・準動詞 ・接続詞 ・仮定法 ・その他

<b>授業の形態</b>	一斉授業 グループ学習 ペア学習
<b>教科書</b>	be SMART English Logic and Expression Ⅲ (いよいよ書店)
<b>副教材</b>	三訂版 入試必携英作文 Write to the Point本冊・詳解 (数研出版) 2026 共通テスト対策【実力完成】直前演習 英語(リスニング)30minutes×7 (ラーンズ)
<b>評価の方法</b>	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
<b>備考</b>	特になし

<b>到達目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

<b>知識・技能分野の到達目安</b>	80%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題を全て理解、暗記している
	60%	教材の全ページの問題と答え、小テスト問題を全て理解している

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
英語探究T(設定)	3 時間

<b>目 標</b>	様々な場面設定の中で、学んだことを積極的に活用するにはどうすればよいのかを学ぶ。英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活において活用できるようにする。言語の使用場面に応じた適切な表現を選択し、英語を通して自己表現する能力の向上を図る。英語理解の根幹としての発音、リスニング、文法の発展的内容について研究する。国際社会に通用する英語運用能力を養う。	
<b>育 っ たい 力</b>	<b>知識 技能</b>	表現の基礎となる文法事項を理解し、さまざまな話題やテーマについての英語を読んだり聞いたりして、情報や考えなどを理解することができる。また英語の学習を通して、言語や文化についての知識を身につけ、さまざまなテーマについての理解を深め、自らの考えを発信することができる。
	<b>思考 判断 表現</b>	さまざまな話題やテーマについて、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして、適切に表現することができる。問いかけに対し即時応答することができる。
	<b>主体性 協働性 多様性</b>	日常生活の出来事を説明したり、用件を伝えたりすることを、簡潔かつ適切に行うことができる。専門的内容を含む話題について、新たな質問を思いつくなどして話題を発展させることができる。話し合いの場ではリーダーとして意見の集約をすることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
<b>1 学 期</b>	[OVER ALL] ・ Unit 1 ア ト ・ Unit 2 食 料 危 機 ・ Unit 3 言 語 ・ Unit 4 同 調 と 合 理 性 ・Unit 5 老後 ・ Unit 6 集 合 的 知 性	・様々な場面設定の中で、授業で学んだ各項目を含む表現を実際に聞き、考え、話し、書く経験をする。 ・自身の英語を通じたコミュニケーション能力を客観的に把握し、更なる向上の方法を研究する。 ・文章中の考えを論理的にまとめる。 ・相手の考えを理解し、同意、あるいは反論などの意見を、筋道を立てて話すことができるようにする。
<b>2 学 期</b>	[OVER ALL] ・ Unit 9 歴 史 ・Unit 10 宇宙飛行士 ・ Unit 11 科 学 的 手 法 ・Unit 12 気質 ・Unit 13 遠隔学習と対面学習 ・ Unit 14 指 計 算 ・Unit 15 感情	・様々な場面設定の中で、授業で学んだ各項目を含む表現を実際に聞き、考え、話し、書く経験をする。 ・自身の英語を通じたコミュニケーション能力を客観的に把握し、更なる向上の方法を研究する。 ・グループディスカッションの中で自分の考えを他者に的確に伝えることができる。

<b>授業の形態</b>	一斉授業 グループ学習 ペア学習
<b>主たる教材</b>	OVER ALL 5 英語総合問題集 改訂版(Z会)
<b>副教材</b>	特になし
<b>評価の方法</b>	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
<b>備考</b>	特になし

<b>到達目標</b>	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

<b>知識・技能分野の到達目安</b>	80%	「OVER ALL 5」の解答とその考え方のプロセスを理解している 「All Ears Pre Advanced」の英語音声に対し、すべての英文をディクテーションすることができる
	60%	「OVER ALL 5」の解答とその考え方のプロセスをほぼ理解している 「All Ears Pre Advanced」の英語音声に対し、8割程度の英文をディクテーションすることができる

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
聖書(設定)	1 時間

目 標	人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び、グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。	
	知識 技能	歴史的、社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探究する。
	思考 判断 表現	自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り、いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが、同時に有意味である自己肯定感を促す。
	主体性 協働性 多様性	異なった考えを積極的に捉え、これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで、全体の共同性を確認する。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリュニー修道院</li> <li>・スコラ学</li> <li>・マリア崇敬 各福音による発展</li> <li>・教皇のバビロン捕囚</li> <li>・ウイクリフとフス</li> <li>・東西教会の分裂</li> <li>・東方正教会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聖書を学ぶ、必要性を知る。</li> <li>・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。</li> <li>・3校祖と3L精神を学び、学院生としての自覚を促す。</li> <li>・教会の礼拝と、学校の礼拝の違いを知る。</li> <li>・イエス・キリストの生涯と、新約聖書の概観を知る。</li> <li>・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。</li> <li>・本来あるべき、神との関係性について知る。</li> <li>・本来あるべき、隣人との関係性について知る。</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エラスムス</li> <li>・ルネサンスとその時代</li> <li>・エックハルトとフロレーテ</li> <li>・宗教改革 ルター</li> <li>・改革派の体系化 カルヴァンによる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新約聖書の翻訳と、人文主義的立場を学ぶ。</li> <li>・神なき文化から魂の救いを考える。</li> <li>・ドイツとオランダの神秘主義思想を知る。</li> <li>・塔の体験、95ヶ条の提題を学ぶ。</li> <li>・スイスの宗教改革の特質を学ぶ。</li> </ul>

授業の形態	一斉授業
主たる教材	聖書
副教材	キリスト教の歴史
評価の方法	定期試験、提出物、小テストによる総合評価
備考	特になし

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
3L希望学 I	1 時間

<b>目 標</b>	ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。	
<b>育 っ た い 力</b>	<b>知識技能</b>	世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。
	<b>思考判断表現</b>	個人またはグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。
	<b>主体性協働性多様性</b>	自分の興味関心や希望進路に沿って設定した課題について、その解決のために何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	「課題研究」	個人の興味関心に応じて課題を設定し、課題探究を進め、論文にまとめ発表する。 また、探究活動の成果を外部コンテストでの発表に向けて準備を進める。
2 学期	「課題研究」	これまでの探究活動を踏まえ、社会課題にどのように向き合い、その解決のためにどのように役割を果たすかについて考えることを通して、次の進路に向けて自らの考えを表現する。

<b>授業の形態</b>	個人の探究活動 ワークショップ
<b>教科書</b>	なし
<b>副教材</b>	なし
<b>評価の方法</b>	学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価
<b>備考</b>	特になし

<b>到達目標</b>	①定期試験	なし
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする